

編集後記

広島支部が発足して27年目を迎えた。1977(昭和52)年12月に発行された『英學史會報』第1号に、当時の日本英学史学会副会長・池田哲郎先生が次の言葉を寄せていらっしゃる。

「ここは戦災の大禍を受けてはいますが、大藩浅野氏の伝統と、広島高師の学統の裡に、英学のテーマは無限にあるかと思えますから、くれぐれも研究の跡を断たないようお願いいたします。蛇足ですが、県下の英学史テーマを、ご参考までに申し添えます。

芸州藩と洋学、福山藩と洋学・その英学への移行、広島英語学校沿革史 附 資料、広島高師英語科 人と業績(職員・卒業生とも)、阿部正弘と洋学、広島女学院と英学、広島に來た英米人の事績、英米に渡った広島県人の事績、戦後の県下中学・高校英語教育史、キリスト教と広島(県) 個人研究(佐伯好郎、渡辺修二郎、福原麟太郎、呉文聡 etc)、江田島海軍兵学校と英語教育

以上は、ほんの一例ですが、中国・四国十ヶ国に探索の範囲を伸ばすとテーマは無限にありますし、又その便宜が中央でなく、広島なら一層大きいことと存じます。大切なことは、頻りに会合を持つことよりも、年1、2回でもそれを必ず続けることと、その記録を保存することです。」(池田哲郎「広島支部発足に際して」『英學史會報』第1号 pp.2-3)

「広島ならではの活動を重ねた例会は通算50回を数え、『英學史會報』から『英學史論叢』へと連なる広島支部研究紀要も通巻27号の発行となった。前号から始めた「赤祖父茂徳文庫」所蔵資料の復刻は、本誌上のユニークな試みの一つだ。本号も小篠支部長に資料の選定をお願いし、『東洋學藝雑誌』第23巻第296号(明治39年5月)より箕作佳吉「中等教育ノ不結果」を掲載した。動物学者の箕作佳吉氏(1857-1909)は、津山洋学の中核を担った箕作家の出。論説で彼は「我邦ノ中等教育ガ實ニ不満足ナル景況ニアル事ヲ感ジタ、イザ事實ヲ挙ゲテ之ヲ證明セン」として、入学試験の英文和訳答案を列挙している。(なお本論説の掲載に当たっては、著者の没後50年以上が経過し、雑誌の表紙等も発行後50年を経ていることから、「著作権の問題はない」との回答を、社団法人著作権情報センターより頂いた。)

「私は、広島を中心として中国・四国の県、十ヶ国を管轄していただきたいと思いましたが、当支部は、謙虚なお気持ちから、広島支部を名乗って発足されましたが、どうぞ実体は、その所管を上記の範囲に亘るお心算で、ご活躍ください。」(上記「広島支部発足に際して」より)池田先生の言葉通り広範囲に亘る活動を続けてきた我が支部は、実態に即して今後「中国・四国支部」を名乗る。「研究の跡を断たない、そして記録を保存する」 肝に銘じたい。(T.U.)

英學史論叢 第7号(通巻27号)(平成16年5月29日発行)

編集・発行者: 日本英学史学会広島支部(代表: 小篠敏明)

発行所: 広島県立大学経営学部英語研究室

日本英学史学会広島支部事務局

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地

電話・ファックス: (0824)74-1725 (馬本研究室)

e-mail: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp